

平成22年度 基金予算の お知らせ

年度末年金資産は約103億円に

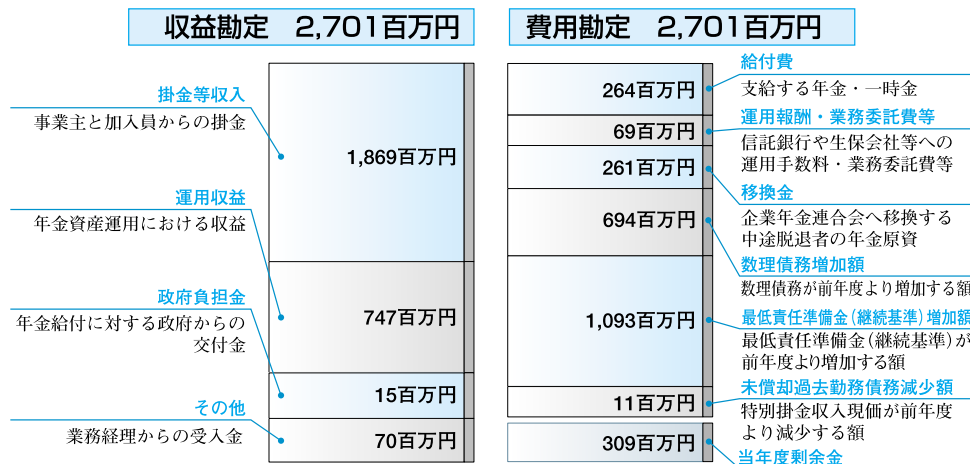
当基金の平成22年度予算が、去る2月9日に開催された第40回代議員会において審議され、全会一致で可決・承認されましたのでお知らせします。なお、年金資産および運用収益は時価基準で計上しています。

年金経理

基金の年金・一時金給付に関する経理です。

●平成22年度の収支見込み

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)



年金資産と給付債務

当基金の財政のバランスは？

厚生年金基金の財政バランスを検証する指標のひとつに「給付債務」があります。この給付債務とは、将来の給付に備えて基金が現時点で保有すべき数理上の債務額で、その内訳として、基金独自の上乗せ部分に係る「数理債務」と国の代行部

分に係る「最低責任準備金」があります。

具体的には「年金資産＋未償却過去勤務債務残高」と「給付債務＋支払準備金等」を比較し、前者の額が大きければ剰余金、後者の額が大きければ不足金を予算に計上することになります。

資産勘定 11,719百万円

年金資産	10,330百万円
信託資産	9,565百万円
保険資産	520百万円
預貯金等	245百万円

未償却過去勤務債務残高 263百万円

繰越不足金 1,126百万円

負債勘定 11,719百万円

給付債務	11,251百万円
数理債務	2,952百万円
最低責任準備金	8,299百万円

支払準備金等 159百万円

当年度剰余金 309百万円

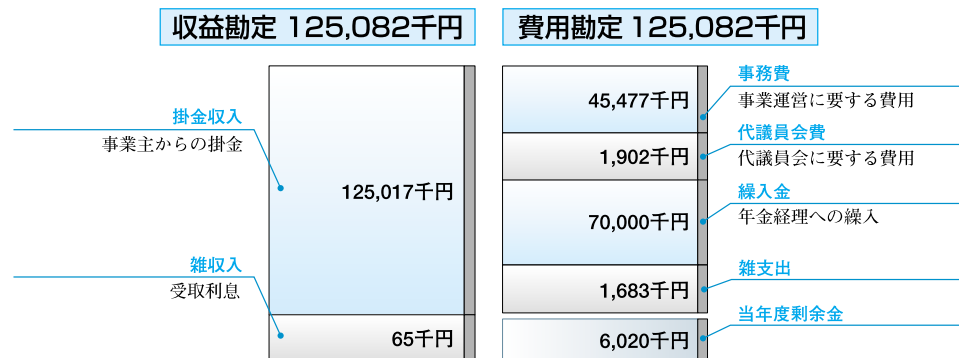


(平成23年3月31日現在)

業務経理・業務会計

基金の業務に必要な費用に関する会計です。

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)



基礎数値事項

予算を編成する際の基礎となる、今年度に予測される数値です。

- ①加入員に関すること ③設立事業所に関すること ⑤一時金給付に関すること

男	女	計	企業数	設立事業所数	脱退一時金	選択一時金	死亡一時金
7,967人	5,941人	13,908人	70	74	300人	75人	1人

- ②給与に関すること ④年金給付に関すること ⑥中途脱退者に関すること

男	女	平均	年金受給者数	中途脱退者
287,411円	199,102円	249,689円	938人	2,624人

基金ひとくちメモ 基金の予算について

基金の予算は、年金経理と業務経理からなっています。年金経理は、お預かりした掛金などと、将来お支払いする年金などに関するものです。業務経理は、事務費など基金運営に関することや広報に関するものを扱っています。

中心はやはり年金経理です。平成22年度の1年間の収支と、その結果、資産と負債がどのくらいになるかのバランスを見ます。

収入では、掛金や運用収益などが実際に入ってくる金額として計上されます。支出では、給付費や運用報酬、移換金が実際に出ていく金額

で、さらに将来の給付のための数理上の金額として、数理債務や最低責任準備金の増減額が計上されます。最低責任準備金は国の厚生年金保険本体の運用利回りが適用されるので、マイナスのときは減少額となります。そして収入が多い場合には当年度剰余金、支出が多い場合には当年度不足金が計上されます。

その結果が、資産勘定と負債勘定のバランスです。1年間の収支と前年度までの状況をまとめ、ここでの不足金または剰余金が、予算編成上で平成22年度末の財政状況の見込みとなります。